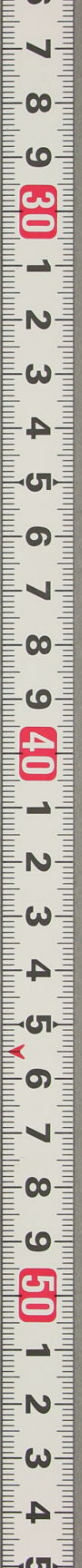


家經燕地

五

~ 13
3331
5



義經勳功圖會前編卷之三

目錄

辨慶德海圖 在書寫山炎燒條 同圖

辨慶洛中奪太刀條

牛若丸伏辨慶條 同圖

蹴上峠牛若丸斬関原与市條 同圖

清盛入道築經島條

源三位頼政最期持世乃圖

重盛逝去并將軍塚鳴動諸卿左辻之條

大正十年八月廿九日
本大學出版部

高倉宮御謀叛并源三位頼政最期條
 福原遷都天変の圖
 福原遷都并諸國源氏蜂起之條

義經勲功圖會前編卷之三

辨慶懲海圓并書寫山炎燒之條

鬼若々形許り出家入道し。船辨慶と名乗意の伶小奉勤く。小原の別所小住々々。萬人小僧々々。これに誰音信者も亦く。唯綱々々。峯の嵐洵々たる。溪乃水音の事。向貞小住ゆの事。亦々々。皆往々々。任飽い。緒國乃難山坊所名所。旧跡を經歷せし。小原々々。津國河尻小下。難波浮兵庫の島をん。通りた。死海船小使を乞く。阿波渡海。焼山霍が峯と順拜し。讀岐路へ。志渡乃道場。亦拜々。夫より。讚岐二國。亦見。面土佐。亦も。經歷し。亦も。阿波。飯り。是より。播州。渡り。書寫山。亦。茶。請。既。小下。向。せし。時。節。五月。末。亦。暑。月。難。堪。々々。唱。や。一。夏。菴。々々。と。學。頭。の。坊。行。々。案。内。一。人。小。物。中。々。と。呼。り。々。れ。書。寫。法。師。立。出。く。何。者。と。々。々。小。長。々。七。尺。余。

色飽遣黒く眼の爛と光り顔殊小塊悪く頭髪長く伸くさも
悪さけゆる射たれむ是は何國の修行者とし同辨慶答く叡山の者
小いと言ふ叡山の何の坊よりまうまといや同西塔の觀慶河因梨の方
と答ふ叔父學頭の御内の人俗姓の奈何小く同辨慶腹成立小面倒ふ
取同様うかしく一際声成厲す天津兒屋根乃苗裔中國白道隆
乃末葉熊野の別當辨正が男武藏房辨慶と申す寂噫呼々まう
そ名乗る大衆小袖成曳聞及一荒者よ悪くせを癖妻有ん
是より烟小くまう修行の坊伴ひたり辨慶をせうひさも有
あんとも是より如何ゆも陸使小勤行へまむ大衆亦感賞し六
形小くぬ物よとさめ死る程なく一隻も過へくを亦慶も亦も
緒國成巡見をやとくもあま残暑嚴くられむ二日三日と日成送りて
七月下旬迄書一少月 今々暇すさうと學頭の坊行小折節

大衆亦兒原成對人々酒毒成促し習つ舞つる寂中をまむ行
も詮なく立戻し小間ある所の有るが板も涼げある処哉とく
立入る小涼風快く吹入るまむ一睡せむとく其後横小なり雷
乃如き外息々々昼寐成たりたり茲小書字一山の悪僧小信濃房海
圓といふ者あり彼酒宴乃中小交り殊小乱酔くがが辨慶が雷乃
如た聲を聞く何者小やと檢まう一回小く入る小辨慶少く有々ま
む海圓腹成立此法師雖小許さまう此処小く寐るまむ吾も多くの
修行者成りまうも渠が如た面悪氣なる者成不見く日本
耻成子(寺中)成退出くまむと硯取く末王墨濃くまむ流
辨慶が面(足駄)と書亦片類(見)法師が履物也と落書きし板
大衆成大勢呼来り列位小奥あり者成是見入るまむ辨慶が
指さるる見大衆亦腹を抱へ板壁成敲く嚏と笑たり此物音小



功四



海 辨 慶
山 寫 書
燒 圖

真 七 攝 會 卷 五 三

慶日於覺。扱も悪死処小昼寐せ。故あつめとく。起出衣刷の学頭
の坊行々小折も御堂小大衆三百人群集會し。右々るが辨慶
が顔成り々々。不思吹出。腹筋とく笑ひ。いよめく小ど。年慶も顔小赤
書せしきと不知む。何更と笑小やと思ひも。人の笑小我乃も笑ひぬも
奈何と。俱小笑顔。居る程小大衆弥堪無く。辨慶が面成り々々。笑
入。あがもくも腹成抱。笑倒まぬ。三百人群。小こり。更あまを唯喊
の声くも怪。ままも。辨慶ハ扱ハ我更成笑なりと心付れを忽ち
居丈高小なり。人々も何か左程可笑む。子細成結り。倡聞をんと袖成
泰上旬るれむ。学頭ハ須波此法師が氣色。しそ妻たま。何き更更小や及
かめと思ひ。大衆成制。否。和法師の更なりす。先魁より可笑こと
成緒出。く笑ひたりと謝るれむ。年慶ハ不肖く小席成立口の中。小鑑
く會釈もた。御堂成下。但馬の阿闍黎といふ人の坊行ん。立出

小道ゆく人小逢慶小面成あがめ。笑ひぬ者たをまを怪と思ふ。水
鏡小字一。んまを笑も理り墨黒小落書。く有々まを奮然。く怒
氣心頭より發り。辛早く面成洗雪。扱も昼寐せ。一。向小斯狼藉
成為られ。り。と覺也。生涯の耻辱此上やあふ。此終小捨置を。未
近人の笑草とかるもの。山門の名先祖。名成汚し。ん。あ。腹立
や其者の脱踐折む。飽足。猛虎乃如く奮激。矢庭小字頭
け房の納所。走入有合唐櫃。二。甲取出。蓋踐破。湯布の直垂。取
出。く著。黒皮威乃腹巻。の九十余日。剥ぬ頭小操。馬帽子。女冠
鉢巻。ま。縮。八角小削。る。一。丈許の標。杖。捧の右々る。成。退。脚。御
堂の前。躍出。沓履。を。椽の上。飛揚り。一隻乃鏡の。した。大。眼。と
瞑ら。吃。と白眼。でも衝。ま。群集の大衆。是成。ん。大。小。張。五
小負成見合。一言も發。する者。なく。音成。静。く。危。ぶ。く。年。慶。鐘

乃如声戎怒らる。此衆の中小吾面へ落書せし者どあるめ疾是へ
出よ。逃隠る者たす。学頭始當坐の法師原皆我仇なりと旬り
り。学頭大小怖ふ。白。和法師の憤り理た。其徒せし者此中り
在や否や。お。治定せ。貴人高位の坐し。御堂へ。皆も脱ぐ。踐
揚も非禮なり。先足も淨の用あるを。静小。さ。い。ど。替め。か
年慶殊怒。撮。上。香履。か。上。る。さ。非礼。なり。と。替。小。何の遺
恨有。く。此法師。面。足。駄。小。して。ハ。履。ま。く。そ。と。訛。同。学。頭。も。此。言
小。差。結。り。頭。か。搔。く。迷。惑。有。小。と。信。濃。房。海。圓。堪。兼。く。つ。と。進。出。衣。の
袖。裏。上。辨。慶。と。と。と。白。眼。先。冠。下。り。学。頭。の。御。房。々。總。使。の。沙。汰。と。以
く。汝。か。無。礼。戎。強。も。替。玉。子。利。害。戎。説。小。奇。怪。乃。拳。動。言。録。道。新
の。癖。者。く。お。汝。ホ。く。如。丸。田。舎。法師。乃。面。足。駄。小。く。履。く。と。何。更。り。有
ん。若。我。落。書。し。た。る。を。何。と。と。と。高。声。小。罵。り。と。年。慶。大。の。小。怒

汝が書たる。汝う腕曳技と。飽足。倡来と。捧取を。成。ま。う。ふ
海圓が朋友の君大衆原七八人。ま。上。と。彼。徑。の。法師。小。海。圓。が。手。成。下。と
近も有。ま。し。様。より。下。へ。蹴。落。し。首。の。骨。跌。折。く。得。さ。せん。と。各。く。衣。乃
袖。か。捲。上。勢。ひ。込。く。競。う。る。年。慶。も。面。倒。也。と。捧。取。伸。く。横。小。薙。と。し
金剛力小。擧。げ。く。何。う。ハ。溜。分。れ。一。口。小。撮。より。下。へ。擧。落。され。片。息。小。あ。く
拙。え。れ。り。海。圓。不。堪。ま。上。を。辺。を。ん。ま。も。手。頂。乃。杖。も。た。り。り。か。ぞ
未。坐。乃。炭。櫃。小。控。戎。亦。切。押。を。會。く。湯。戎。焚。く。る。あり。是。寃。竟。と。中。り。も
長。れ。燃。抗。退。取。其。処。引。お。法師。と。く。擧。げ。く。堂。上。り。所。と。思。ひ
俱。小。御。堂。戎。靴。下。し。結。つ。用。つ。擧。合。し。早。足。の。年。慶。は。と。身。成。下。せ。猿。背
戎。伸。く。海。圓。が。肩。口。魁。く。左。手。小。く。股。戎。摺。添。同。より。高。く。さ。り。と。く
堂。の。廣。場。の。方。へ。歩。み。行。衆。徒。小。海。圓。が。身。小。過。有。ん。更。戎。怖。ま。口。毎。小
修行者御免。い。其。者。も。天。性。酒。狂。乃。癖。あり。修行者の。面。徒。せ。し。も。酒

氣小乘いせりの戯たむけをまじ曲まげく宿やちしゆいもも緋ひ小こるる。年慶としのまつり吟笑うたかた。日ひごら
 の御ご寺てら法ぼう小この修行者しゆぎやう乃すなはち酒さけ狂くるハ大衆たいしゆより制せい。大衆たいしゆの酒さけ狂くるハ修行者しゆぎやう緋ひ
 よよとと承うけたまへまごご後うしな末つひのの見ま懲こけけ為な斯かくくせせめめとと言いささ又また一ひと振ふるる一ひと丈ぢ二三
 尺しちも有あんんむむららししんんととるる。講堂かうどうけけ屋根やねへへ投なげげ上ありり。海圓かいえんハ尚なほも燃も杭かとと
 放はなももややくく持もつつりり。講堂かうどう乃すなはち軒のきへへ投なげげ上ありり。更さら小生こせいなるる心こころ地ちをを燃も杭か
 も屋根やね小棄すて置た儀ぎをを擲なげげ。むむびびくく。南面なんめんの敷石しきいしれれ上ありり。倒たれれとと落おちち。年慶としのまつり
 尚なほ憎にくしし。やや思おもひひ走はりり。手て乃すなはち小腕こでん踏ふ折を馬うま手ての助骨すけほね二ふた枚まい損こた
 了しま。然しか小こ希有けうゆうの珍事ちんじ。そそ出い来きたりり。海圓かいえんが捨置すて。燃杭も杭か山風さんふう小燃こも立た。講
 堂かうどう乃すなはち桶おけ小燃こも付つ。燭しやくとと燃も上ありり。小こぞ大衆たいしゆホホ大だいのの孩こども丸まる。頂ちやう波な出い火ひとと周障しゆじやう
 強つよ我われ打うち消けんんとと閃ひらりり。風かぜ益ますます強つよくく吹ふ出い。早はや黒煙くろえん八はち方ほう小こ充み焰えん起お巡めぐりり
 多た宝塔ぼうたつ。文珠堂ぶんしゆどう五ご重塔じゆうたつかんかんとと火ひ移うつりり。ささもも性空上人じやうくうじやうにんの建た立た有ありり。靈れい場じやう
 一時いちじ小こ火ひとと成な黒煙くろえん日ひ光くわうとと覆おひひ。更さら小暗こあん夜やののぐぐくくななままむむ。年慶としのまつりも古打こうち

鳴なくく悦よろこびび煙えん小こ紛まりり。退たい京きやう都とささててどど弛ち登とうるる。然しかろろ火ひ勢せい益ますます盛さかんん成なるる
 書しよ写しや山さんの堂どう塔たつ五ご十じゆ箇こ所しよ僧房そうぼう三さん百ひやく余よ。一いち時じ小灰せうかい燼せんとと成なるる。是ぜ非ひも亦また
 次つぎ第だい也なり。年慶としのまつりハ足ありり。道みち急いそぎぎ。一ひと昼ひる一ひと夜よ走はりり。京師きやうしハ登のぼりり
 々々々々。其その日ひ都とハ暴雨ぼうう降ふりり。風かぜ烈れつくく吹ふく。人ひとハ往むか来きも希まれありり。年とし毎まい
 慶えい深ふか夜や小こ恠ころろぬぬ声こゑ。洛らく中ちゆう戎じゆう走はりり。院いんの築地ちくぢの上のうへ。搔か上ありり。ああるる浅あ猿さるや
 ささもも性空上人じやうくうじやうにんの建た立た有ありり。書しよ写しやの靈場れいじやう衆徒しゆどうが悪行あくぎやうより火災かさい幾いくも堂塔どうたつ
 僧坊そうぼう一いち宇うも不ふ残ざん。一ひと時じの煙えんとと成なぬぬ。呼よびびりり。逐おひひ小行せうぎやう方ほうあありり。成な小こるる
 院いん乃すなはち御所ごしよ小こハ是ぜ戎じゆう。是ぜハ斜しゃめめぬぬ。珠しゆままるる。急いそぎぎハ實じつ否ひを見み届とくく
 急いそ馬うま戎じゆうままるる。小こ果くわとと火ひ焼やくく。一ひと定ぢやう小こいといと飯い羹かう。院いん大だいハ小こるる。急いそぎぎ
 急いそ丸まる衆徒しゆどう乃すなはち字頭じぢゆう戎じゆう。其その顛てん末まつハ丸まる。向むかひひ。小こぞ字頭じぢゆう隠いんをを急いそぎぎ
 中ちゆうハ海圓かいえんが酒さけ狂くる。修行者しゆぎやうの面おもて。落お書しよせせりり。論ろん起おりり。海圓かいえんが捨置すて
 一いち燃も杭かより炎えん焼やせせ。趣しゆ戎じゆう。小言せうごん十じゆ々々。院いん殊じゆ更さら怒いかりり。せせりり。海圓かいえん

社佛法王法の敵なり。急を召捕よ。津國の住人昆陽野太郎小直告
茂賜り久。昆陽野太郎兼り。即尅百余人の逞兵徒。播州へ馳下り
脇へ下る海圓を召捕。張喜小乗く馳せ。更に聽の白砂へ曳居。二人の
所為。同意の者有。茂推問す。海圓心小思。書写山不残。交焼せし上。ち
よも助命せし。逆も罪せし。あやう。日本我小憂。重し者。茂も連
坐小せし。則同意の者十二人。悉く其名を白状。し。小直
人亦是。茂も召捕。十一人の衆徒。大い。小直。悲し。毛頭海圓。同意
仕。種く陳謝。小直。亦海圓を嚴。跨問。小直。さ
ぬ。年慶。為小。半死。半生の海圓。苦痛。小堪。終小。責殺。さ。さ
息絶。近も。同意の者。茂殺。吾二人を責殺。一念。必らず。惡鬼と
なり。朝家小。仇せし。叫罵。り。同。弥。同意。小疑。ひ。彼。十二人。も
悉く。連坐。刑。小。行。さ。衣。次。弟。也。年。慶。是。茂。聞

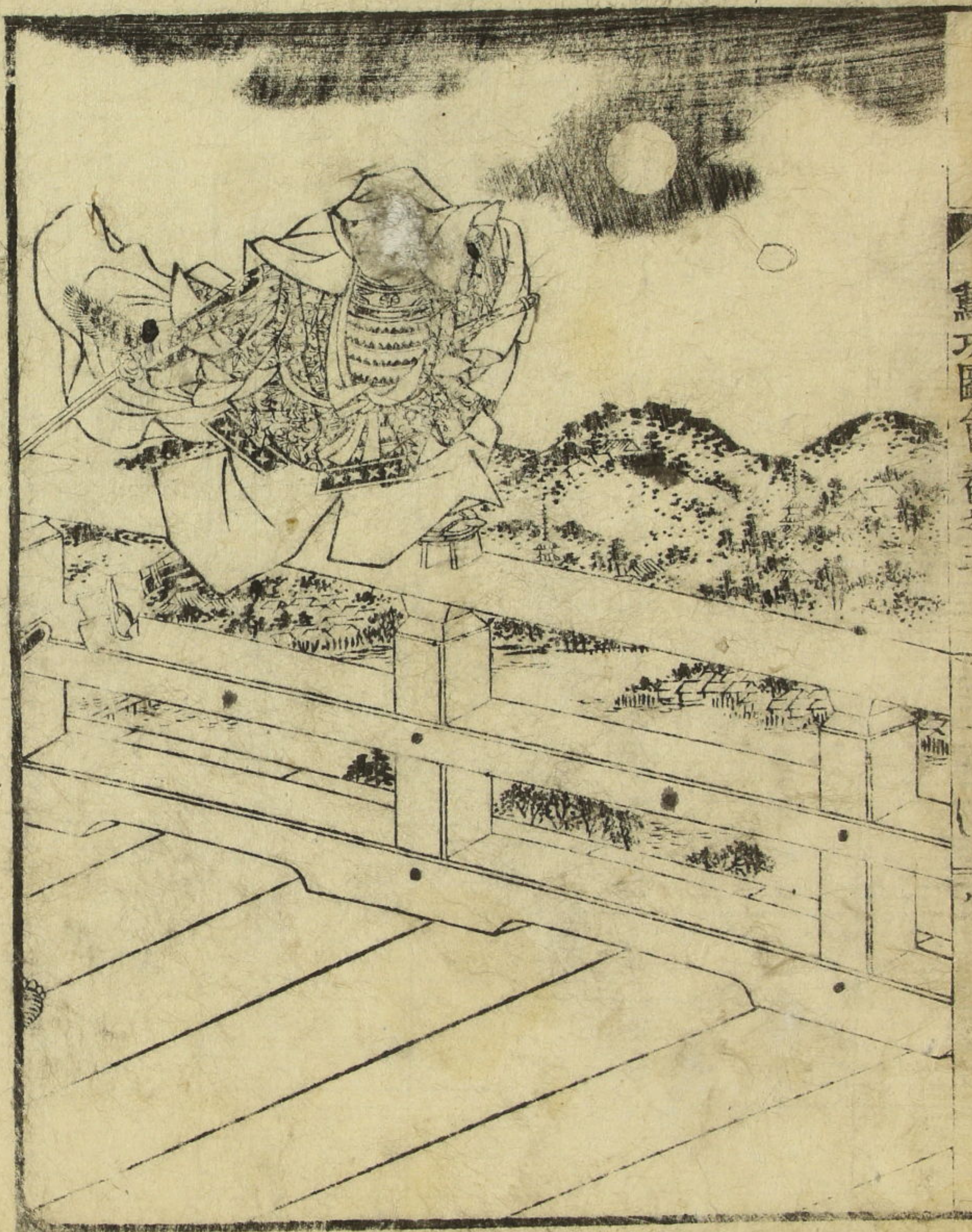
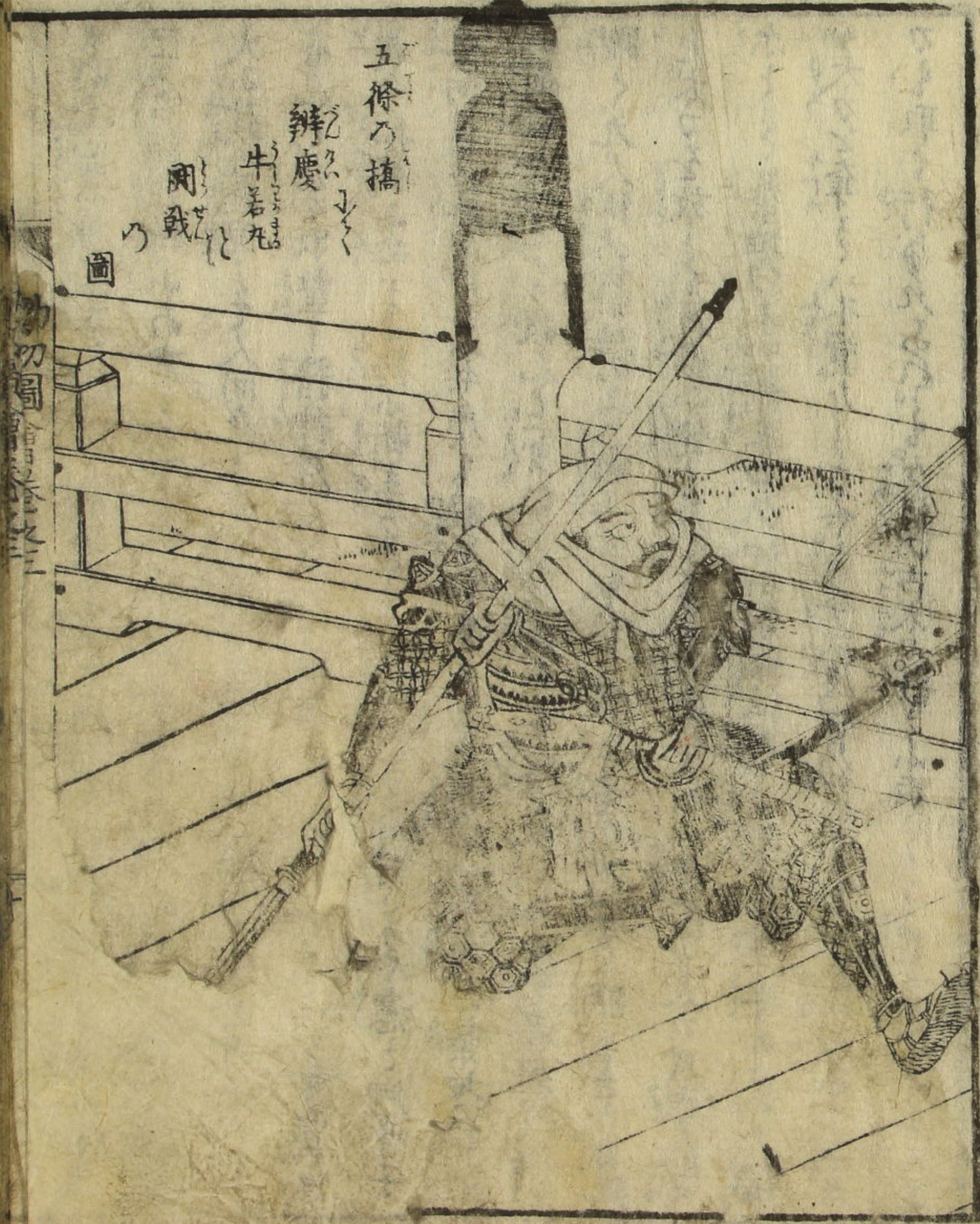
く借小舌。茂。出。悦。び。手。下。寺。仇。茂。報。せ。更。よ。と。笑。ひ。さ。と。そ
辨慶洛中奪太刀條

武藏房年慶ハ僧小々僧の行条茂。亦武家小たり。仕官も
せ。唯意の。小。挙。動。多。信。心。小。思。古。より。大丈夫。好。所。の。物。と
予の。數。茂。揃。持。と。鎧。り。今。も。興。の。秀。衡。名。馬。子。足。鎧。十。領。と。貯
へ。松。浦。太。夫。為。次。ハ。胡。籙。子。腰。弓。子。張。茂。持。と。聞。音。只。鎧。二。領。太。刀。壹
振。長。刀。一。枝。外。小。貯。物。何。年。人。の。佩。太。刀。子。も。予
振。奪。取。吾。重。宝。小。せ。と。世。小。希。成。茂。夜。毎。小。都。乃。町。く
茂。損。行。太。刀。佩。者。小。逢。有。無。を。言。せ。予。奪。小。夜。毎。小。五。振。七
振。取。夜。そ。太。刀。り。然。も。雜。有。敵。者。其。頃。洛。中。の。風
貌。小。此。頃。長。一。丈。許。法。師。細。人。の。太。刀。茂。奪。連。夜。乃。行。
天。狗。乃。の。所。為。臆。病。者。輩。小。限。小。他。行。さ。と。茂

力切司

恐是適腕主を好む者多、裁見とく却て幸死同小逢、太刀成奪る者
 数ちす、弥変化の所為とを言觸し、斯る程小年慶も奪留する太
 刀成、葉刀も小既小九百九十九振ぞ有る、今二振なり、此度八並の太刀
 小も同成りけず、奈何小も死太刀成奪ひ、望成達せし、五條の天神
 へ泰結し、天晴願く、今二振の善太刀佩し、男小逢せり、祈念し、築地の
 蔭小身を隠し、泰結乃人の太刀小同成付る小折しも、八月十七日小、朗月
 の影昼乃如く、明りなれば、濃く近かき、心小合ふ、太刀佩し、男もな
 く、維慶殆ど退屈し、欠伸し、有るも、其夜も既小、明方近なる頃、堀
 川乃おろし、笛面白く吹鳴し、ある人あり、如何なる人小やと待たせり、刀
 ぶ小、赤く若人、人品優美なる、白た直垂小、死腹巻し、精好の大
 口成、黄金造乃、太刀の心も、刃も及ぬ、絆たると佩し、年慶争り、悦ひ
 さ、人宿願成就の期来まると、頭を出て、二王立小、衝立を声かけ、

優の御方や、曉小、み、び、小何方、御出い、音小も、聞玉、是、頃、日、洛中を
 徘徊し、人、此、太刀成、奪ひ、法師、よ、刀、中、せ、て、由、人、善、太刀成、佩、す、後
 會、泰、せ、不、肖、小、我、賜、く、御、通、い、其、反、報、小、行、方、追、送、り、泰、
 せん、と、ぞ、中、々、此、由、人、是、別、人、あ、ら、ず、牛、若、君、小、在、々、完、尔、と、其、六、せ
 玉、ひ、美、此、頃、さ、者、有、と、聞、く、が、叔、和、法、師、が、更、方、り、々、懇、望、乃、く、ち
 太刀成、得、さ、せ、度、も、有、ら、是、八、重、代、の、秘、藏、小、備、前、友、成、が、百、日、渡、り、
 く、鍛、一、各、刀、あ、ま、と、吾、手、より、あ、ふ、更、能、く、欲、く、と、倚、く、取、よ、と、作、ら
 年、慶、を、せ、ま、ひ、さ、ら、を、賜、ん、と、ど、ろ、と、寄、く、奪、取、ん、と、さ、ら、小、御、曹、子、は、後
 さ、ぬ、三、間、行、形、志、さ、り、太刀、抜、放、し、倚、を、斬、し、と、待、け、り、存、慶、
 怒、成、悲、殺、し、い、ら、ざ、ら、小、冠、者、が、腕、を、う、り、假、令、天、魔、鬼、神、な、り、と、も、今、内、
 我、小、敵、せん、者、と、覺、ね、い、く、一、擲、し、て、な、ん、と、大、手、成、廣、く、け、向、い、も
 奇、敏、不、測、の、秘、術、を、究、る、身、構、を、き、二、点、乃、透、間、な、り、手、成、出、さん、や、ふ、な



寛政功圖會卷之三

功圖會卷之三

くれむ心焦燥く太刀抜赫し曳やと喚く切くるふ。
 はず。右請左拂小あやどり。上下前後小斬まのむ。流石れ并慶
 大不残き此見しそ人向方く。化粧の者が変化の徒う。さこそ何程のこと
 有んと。太刀取整し精神が属す。行成流く剛も。御曹子が神変不思
 義の秘術小碎ぐ。終小斬まらま。二三段引退く。得たりや應と御曹子
 真向月が斬け。并慶も眼早く是刃を。拂切小斬上。小築地の斬折
 小圖破と切込ぐ。抜んと一更ひく。延成御曹子躍上つ。并慶が眉間成強
 蹴く。九尺絆の築地の上へ飛上る。并慶も急所成強く。蹴らま。自
 太刀を放し。尻居小倒したをま。御曹子并慶が太刀成奪ひ。完
 尔と。築地の小衝ま。如何小賊法師吾太刀成奪追し。そふれ。法
 が太刀と奪う。ハ不覺な。む。自今以後心成改め。る。狼藉成あ。そ。太
 刀も取く行る。死あれ。む。ケ程の古太刀。敵小取と。思し。ん。も。一。も。

た。ま。ま。返。取。ま。る。と。と。築地乃棟小推曲く投返し。並慶無念の
 齒が。成。あ。せ。と。も。詮。方。あ。く。と。今。宵。ハ。仕。損。む。と。重。く。ハ。奪。く。と。置
 一と謔き。太刀拏直し。鞘小攸く。行過。御曹子小築地の上より御
 一と喚はせ。む。ひ。び。く。と。飛下り。御曹子。辨慶。屏。目。小。見。く。急。小。太。刀。抜。う。と
 斬。ま。る。と。と。亦。後。さ。る。小。築。地。へ。飛。上。る。其。射。燕。乃。下。く。あ。れ。は
 并慶致。嘆。く。早。業。化。人。の。可。為。小。あ。ず。強。く。拒。敵。せ。何。何。な。も。更
 小。逢。ん。命。の。有。ん。程。小。と。後。を。も。刀。成。と。と。逃。取。り。是。并。慶。が。生
 涯。の。逃。物。な。り。と。後。小。咲。草。の。種。と。な。り。の。ひ。り

牛若丸伏辨慶條

柔よく剛成制し。弱く強成制する。か。武藏房并慶。海内。小。右。小。出。る。勇。者。か。一。と。思。居。る。小。思。の。外。御。曹。子。の。奇。術。小。挫。き。我。を
 忘。く。逃。帰。し。心。耐。く。と。樂。子。守。吾。適。大。願。成。獲。し。既。小。満。願。の。期。

逃飯はなはの吾われたゞう奈何なにかある心小こう有あらん望のぞけたる太刀たち成得えらん
 小冠者こかんしや小対こたいまそ死しんむじろものをし後悔こうかい胸むね成喘なげとも交まらす再度ふたたび彼かれ思おもひ
 會あひもし夜よく洛中らくちゆうを走巡せせうく尋たづねも絶たえ逢更あいにあられし大おほい小望こぞ
 失うひ北きた上うへ八佛はつぶつの成頼なりんめと清水しみずに觀世音くわんせいおんへ奉詣ほうぎくろふ折まりし九月
 十八日じゅうはちにち乃すなはち更さらふきた賤群集せんぐんしゆうく續經つづきん乃すなはち声喧こゑし年慶ねんけいも心中しんちゆうの心
 々さらへそと觀音くわんおん乃すなはち御起誓ごぎせい小こ身みと此こ三身さんみ小こ變へんくこ十方じふたう衆生しゆうじやうの願ねんを満み
 ん一度いちど吾われ成祈なりん者ものも無量むりやう乃すなはち福徳ふくとく成授なりん若わ此こ誓せいひ空くわくこ紙園精しえんしやう
 舎や乃すなはち雲う小こ交まり永とこく正覺しやうかくをくくドと誓せいひああきききもも年慶ねんけいも福ふ
 徳とくも設しやくく唯ただ彼かれ少人せうじん小逢こあせ備びたる太刀たち成奪取せんじやくせりこ心こ意いくく然しか
 る小正せうしやう面めんの格かく子し乃すなはち際さい小こ履りした声こゑくく法華經ほふわきんの二に乃すなはち卷まけ半はん成續つづ鋪ぽくく
 人ひとあり其音そのおん清雅せいあ小こくくああららも用合りやうが五音ごおん衆しゆう小勝せう進しん群集ぐんしゆうの人ひと乃すなはち喧けんくくここ
 も混ませす甚殊しんじゆ勝しやう小こそ聞きたる年慶ねんけい思おもひ寸耳すんじやく成傾なりけ稍聞しやうきんへく頭かぶ成低なりく

よりく聞きを去さし夜よの少人せうじん成声なり小こ紡つむりりままああぬぬああ心こをくくなな
 心焦燥しんせうそうく近付ちかづ刀たちをを持もつつ長なが刀たち成正せい面めんの長押ながおしれ上う小こ置お大勢たいせい居ゐ
 たる中なかつをを寺中じちゆうの役人やくじんなり免めんささるる膝ひざも足あしもいいくくそそふふ
 多おほく彼續經かれつづきんく居ゐる人ひとれ後うしろ小こ被辱ひじやくく窺うかがひひ諸人しよじん御燈ごとうの影かげ小透せう
 しんくああららいいくく法師ほふし乃すなはち丈たけの高たかさよよそそ中ちゆう々々年慶ねんけい八耳はつみ小こ不掛ふかけ
 經きんよむ人の躰ていとららるる薄衣うすぎ深ふかく被ひ死しくく更さら小こ男女なんにやの合あををああららす
 思煩しぼんく太刀たちの韜たうふく脇わき下した成突なりくく突つくくも御身ごみをを見みるる女には是こゝ寺中じちゆう
 乃すなはち役人やくじんも其処そのところ退ひいへへ中ちゆうせせも何なん乃すなはち答こたへへせず尚高さらたかやや小こ續つづ鋪ぽくくりり
 きむ社しや凡俗ぼんじやくああららず先夜せんや乃すなはち男おとこごごめめとと猶なほも強つよく衝つききバ彼人かれじん夜よを取と
 く年慶ねんけい然しかもも白しろ眼まなこくく是則こゝろ牛若君うしわかみ少すくく在ありり扱あ作さるるハ是こゝハハ
 ありと食く法師ほふし乃すなはち汝なんぢがが死し者ものハ人ひと並ならむむ御堂ごだうへへよよすすも樹下じゆげ石上いしじやう
 小くも念ねんくく御佛ごぶつの大慈悲だいじひ小こ捨するる人ひとく多おほく御坐ござ在ありり見み若わた



姿ふく推泰ささる條甚尾尾菴あり疾出りし比里み入年慶呵くとりし
 情あり人の作ふ既小先夜對面仕くいもの成御身小尋會めとと。幾夜
 う意然勞しゆぞ。倡俱小續緋せんとはと御傍へ寄むと坐しと。何音り
 こそ續りたり。原來西塔中く青し辨慶ふまを句切息継切者成得た
 御曹子小鞍馬少く成長めんむやもさう也。年慶うこの声。御曹子の甲は音
 俱小桐和。法華經乃二卷半巻なり續緋ある小群衆の老若あり面
 白や尊やと鳴を鑑く聞入む行人も敷珠の音然止く。此續経は声り聞
 入心耳然傾々狂小今追喧し院内忽ちひつそと静り。小夜の松風音そえて
 心刻も及ぬ追寂殊勝小ぞ聞えたる程なく二の巻終りくまむ。御曹子ち
 夜歩被たけと坐然まき出む。年慶も後どと。何く起く長押の長刀
 退取走出し小早姿然刃失ひ其所う此所うと尋るうち。遠の彼方小例の笛
 の音あそり。扱社彼着者よと音然あそる小慕ひ行。御曹子も心中小ハ

渠と夜半伏く。郎黨小せとやと思召たれを急んとも。玉守。怒く然として
 葉鋪吹と。五條の方へ漸く其大勇小也恐く亦八苗乃音小や聞われ
 々ん年慶も急小聲もかろす。後遠小徒ひく行といあ。小五條乃橋辺
 追来りたるが。このと何時成期とぞ。御前小立塞り扱も心剛ある
 女入る。先夜も空く物別したまも。大丈夫乃望うけ。太刀。是非賜ん
 為夜毎小尋巡里。稍く今宵見泰小入泰くせぬ。個程小執心とる其太刀今ハ
 得させり。御曹子笑しを。先夜乃手並小も懲す。来りて者も幾度も我手より
 らむ。物業小く賜ん。長刀柄長く。退取伸唯一討と。子。薄衣脱捨。太刀
 合。伊慶二期の大吏此時かりと。眼賦。遠を担ひ。御曹子と。或ハ橋の橋干小躍

上アかんじくく小鳥の戯る如く拳動のど。弁慶と御姿を定ふ小父と
 むふ妻能はず唯酔うかくわく。幾度う長刀を搦り搦折し或は空を
 切のふくく。今ハ精神殆ど疲き果す元支度路小乱る所を得たりやと
 恥づや。太刀のみひみたりて隻腕丁と撃つた。此の鉄腕痺れ痛
 不思長刀取落し。俛首小倒る。御曹子恥うつく。誓の上小歩踏ま
 如何も法師。今ハ斬とも助るとも。吾随意に心を改め我郎黨小あや
 否やといむ。弁慶頭をむげ。初も御身ハ如何なる人ハ公達少く斯近
 武術小長し。人ふぞも。先御名。名乗りのと。御曹子弁慶と引
 起し玉ひ。人ふ泄さぬ。我名なかく。中。父。吾も清和天皇の後胤。左馬頭
 義朝が末子。幼名ハ牛若丸。今の名ハ源九郎義経。十。右。乗。り。小。辨
 慶大を小孩童。扱ハ。歴。然。り。る。源。家。の。公。達。小。辨。慶。大。に。姓。を。小。御。器
 量し。中。天。暗。の。大。將。軍。我。主。君。と。頼。奉。人。小。不。足。り。馬。八。熊。野。の。弁。正。小。

男。慶。岳。の。西。塔。小。く。成長。武。藏。坊。辨。慶。と。す。者。小。く。ひ。と。す。ぬ。御。曹。子。御
 悦。喜。限。あ。く。我。僭。小。大。義。我。思。立。り。我。郎。黨。我。而。心。と。夜。毎。小。路。中。に。御
 徊。り。く。人。の。剛。臆。我。誠。心。り。小。不。あ。る。あ。ひ。が。く。た。勇。士。と。不。見。自。今。以。後。ハ。三。世。の
 主。従。と。固。く。契。約。し。り。り。弁。慶。と。俱。小。山。科。へ。も。飯。を。ひ。り。す。

其。項。平。氏。と。威。權。次。弟。小。重。く。た。り。清。盛。が。弟。十三。の。女。と。高。倉。院。乃。宮。妃
 小。献。一。処。君。電。浅。う。す。官。中。の。緒。地。是。が。為。小。顔。我。失。ふ。り。な。れ。に。平。

家。一。門。の。軍。目。小。位。階。我。進。ず。清。盛。ハ。逐。小。大。政。大。臣。從。二。位。小。叙。せ。り。

小。松。重。威。ハ。内。大。臣。に。叙。せ。り。羽。林。上。將。我。兼。く。林。兵。部。司。たり。二。男。其。

從。四。位。下。右。衛。門。尉。其。男。行。盛。ハ。正。五。位。下。左。馬。頭。清。盛。乃。三。男。宗。盛。ハ。從。一
 位。内。大。臣。四。男。知。盛。ハ。中。納。言。五。男。重。衡。ハ。本。三。位。中。將。六。男。知。度。ハ。從。五。位。下
 三。河。守。七。男。清。定。ハ。尾。張。守。八。男。清。房。ハ。淡。路。守。九。男。清。邦。ハ。丹。後。守。十。男

加口司 卷之三 一一三

良衡八周防守。十二女子少く、花山院左大臣の室。十二も女子少く、白河院の
 三の宮。十三も女子少く、則高倉院の中宮。建禮門院と云、安徳天皇の國母
 たり。其外信盛の舎弟左馬頭家盛、地入納言頼盛、門脇中納言教盛、盛盛、
 守忠度、亦重盛の男、左中將維盛、門資盛、門清経、門有盛、門修理、門文忠、房
 門備中頭師盛、門脇教盛の男、越前守通盛、能登守教経、藏人業盛、経
 盛、乃男、但馬守経政、無官大夫、教盛、其餘、叔季、と云、小暇あらず、都二門の
 公卿十六人、殿上人三十余人、緒國の守領、緒司六十三人、平氏の領する國三
 十七ヶ國、とぞ、聞々、真小園門の鑿、宋言、緒小絶。譬、小物、方、歡、樂、榮、曜
 意、小任、さ、依、吏、な、し。然、も、永、曆、元、年、一、り、天、下、の、兵、權、と、執、吏、二、十、余、年、あ、れ
 た。四、夷、八、荒、其、威、小、伏、し。廢、久、ぬ、草、木、も、あ、り、さ、ま、を、平、家、の、御、内、し、言、て、ち
 末、く、の、軍、卒、と、金、權、勢、が、張、る。公、家、高、位、の、御、方、小、對、し、く、も、と、非、礼、の、舉、動
 多、く、我、意、小、募、り、ぬ、ゆ、く、他、の、武、家、に、軍、卒、及、る、吏、士、故、乃、如、く、不、法、を、働

く、吏、每、度、あ、ま、き、と、も、世、人、皆、平、家、の、猛、威、小、恐、と、唯、除、く、通、一、く、故、狼、藉
 益、く、増、長、し。平、家、武、士、と、い、ふ、を、肩、く、圖、成、切、く、人、も、な、げ、小、ぞ、横、行、し、
 然、る、小、御、曹、子、ハ、斯、重、成、も、恐、ま、さ、ま、守。山、科、小、在、く、舉、ぐ、加、膽、の、者、と、さ、い
 の、ひ、ろ、ろ、ろ、一、日、浴、東、蹴、上、峠、及、通、く、を、ひ、ろ、ろ、小、東、の、方、一、り、内、勢、肉、五、十
 人、并、引、率、し、武、士、馬、上、小、く、来、り、ま、り、ま、り、行、違、ひ、さ、ぬ、小、彼、武、士、の、乘、り、
 馬、溜、水、小、足、踏、込、誤、り、足、成、踏、を、成、さん、と、一、々、ろ、ろ、其、勢、小、泥、水、迸、り、
 御、曹、子、乃、召、き、こ、ろ、大、口、小、漫、と、か、ら、ま、り、然、れ、ど、も、馬、上、の、武、士、六、見、向、も、や、
 ず、行、過、ん、と、為、小、ぞ。御、曹、子、大、い、小、怒、り、ひ、く、馬、前、小、左、塞、り、ひ、汝、何、も、の
 ろ、ま、さ、む、馬、蹄、の、泥、水、小、く、吾、衣、成、汚、り、あ、ら、う、一、言、の、謝、言、小、も、及、な、ず、行
 過、ん、と、い、言、猪、門、断、乃、曲、吏、う、か、疾、く、馬、より、下、り、夜、せ、汚、成、淨、め、よ、ま、か
 く、を、得、し、そ、通、じ、ま、し、と、こ、と、と、白、服、小、ひ、な、れ、む、馬、上、の、武、士、巨、口、と、聞、く
 呵、く、と、笑、ひ、膽、太、き、小、冠、者、が、言、條、く、か、汝、我、を、を、維、と、う、ぬ、り、入、平、家



蹴上峠

十五



蹴上峠

十五

普代の臣越前國住人岡原市とり者よ只今京都に在番のこゝ
 通行をり我路に下坐しと致せんとせす聊夜の汚き一とく無礼
 の過言奇姪たり一太刀斬り捨るは奴もあれどもあま幼年小者も
 市後此勇士が斬りと言ふも長氣なきを二命成を助て早過
 成辨く三拜せよとて旬々物小堪ぬ御曹子勃然としく怒激し
 無位無官の匹夫無道の平家此虎威成りの人もなきある言條了も悪
 々多吾我誰とる思ふ左馬頭義朝が八男源九郎義經のあそて氏神八
 幡官の御罰に一太刀寛しやと作も果す御佩刀拔手成も刀せ玉守
 躍上く丁と斬りくを可憐岡原市細首宙小振手落され一言も悪殺せ
 す成るがりの岡原が即堂大の小警丸須波主の仇通さくし太刀拔連く
 左駿をぬ御曹子ハ少しも駿だ玉す蜻蛉掃妻のてく地巡りひ或を親
 肩口腕肥るんじ一太刀寛手成負しり人渠本が周障とも隙小何國とも

